

さあ、行くぞ!!



第78回日比谷メーデー

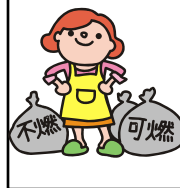
5月1日、「働く者の団結で生活と権利、平和と民主主義を守ろう!」をスローガンに第78回日比谷メーデーが開催され、会場となった日比谷野外音楽堂には約12000人の闘う労働者が結集した。東京清掃青年部からは、総勢64人の仲間が作業着を着用して参加。式典の終盤から降り出した強まる雨にも負けず、デモ行進ではシュプレヒコールとともに銀座の街を力強く行進した。



ヤングパワー

ヤングパワー
第6号
07.7.15発行

◇発行責任者
星野友和
◇編集責任者
高橋正幸



■作業着で続々と結集

今にも雨が降り出しそうに曇り空のもと、集合時間が近づくにつれ、各支部からの参加者が続々と集まってきた。着替えや受付といった受け入れの任務も一段と慌しさを増していく。例年、必ず2、3人は作業着を忘れてくるのだが、今年と今年はゼロ。この間の地道な「呼びかけ」が実を結び、青年部には「メーデー作業着用」が完全に定着したようだ。

■式典にしっかりと集中

長い時間同じ場所にいることが困難(?)な若者集団にとって、座り続けるのは容易なことではない。「むやみな離席はしない」が毎年の課題でもあった。しかし今年にはトイレや喫煙以外の離席はほとんど無し。みんなしっかりと式典に集中していたかは別として「集団から離れない」という意識は大きな成果ではないだろうか。

■新しい仲間の姿も

今年の青年行(青年部行動)の中には、4月に練馬区と中央区で新規採用された仲間の姿もあった。声をかけてみると「何だかわからないまま職場の先輩に引っぱられてきました」との正直な返事が。行動や活動のきっかけは人によって様々だが、もしかしたら

そんなカタチが大半を占めるのではないだろうか!?

■雨二毛負けず

式典が終盤にさしかかる頃、雨が降り出した。しかも徐々に雨足が強まる。参加者から「雨具を貸してくれ」という声も強まる。しかし荷物運搬の手違いで、事前に用意した雨具すべてを解散地点に運んでしまった(申し訳ありません)。強まる雨の中、支部・地連旗や横断幕をしっかりと握り、力強くシュプレヒコールをおこなう姿は、まさに「闘う労働者」であった。

今回のメーデーで印象的だったのは、著しい青年部員数の減少がある中で、昨年と変わらぬ参加人数であったこともそうだが、地味ではあるが、地連選出実行委員の確実な任務の遂行が約60人の行動を円滑に果たと言える。メーデーに限らず、こうした陽の当たらない「結集に向けた取り組み」こそが重要であり、大切にしなければならぬことを痛感した。

青年部地連活動

組織強化は「運動」で

【青年部第四地連】

4月18日、池袋ロサ会館にて「新入組合員歓迎ボウリング大会」を開いた。練馬区に新規採用された8人の仲間はもちろん、地連内各支部から26人が参加し盛り上げた。

無作為に人選したチーム編成により、最初はみんな緊張を隠しきれない様子だったが、時間の経過とともに、会場には笑い声などが響きわたった。運動は運動でもこうした「スポーツ」による交流も組織づくりに欠かせない重要なものである。

少人数でも「学習」

【青年部第二地連】

5月19日、SKプラザで「青年部第二地連学習会」が開催された。現在19人と

いう組織人員の中で、当日は12人が参加。大熊孝典本部教宣部長を講師に当面する課題について学習した。特に講師は「若年層の青年部こそが、職場実態と絡めた切実な要求として新規採用を勝ち取る運動を主体的に進めるべき。それには職場での点検活動を強化する必要がある」と声を強めた。

新入組合員学習会

【青年部第一地連】

中央区で新規採用され、わが組合に加入した仲間を対象に、5月26日「新入組合員学習会」が行われた。星野友和本部青年部長から「労働組合とは何か」をテーマに講演を受けた。星野部長は現在の情勢に対する問題点を明確にした上で「当たり前だが、身体が健康でなければ仕事も遊びもできない。職場で感じる矛盾や不満を声に出して改善し、安全な職場環境を作りあげよう」と提起した。

07春闘 激励行動



私鉄総連の中小組合が3月27日をストライキ設定日として交渉を続けているなか、団結集会東京実行委員会は3月26日(火)共に実行

委員会を構成している私鉄関東バス労働組合へ「07春闘激励行動」を行なった。労組本部での交流で、青年女性対策部の仲間からは「定期昇給制度そのものが無く、さらに6年間低額妥結を強いられたなかで、若年層の賃金が上がっていない。19日には青年女性対策部全体集会を開催し、青年女性が声をあげていこうと意志統一してきた」「会社は経営状況や設備投資の負担を盾に、賃上げを拒んでいる。しかし、私たちはこれまで会社再建のために協力してきた。会社は、人的投資としてきちんと賃金にも配分すべきだ」などの思いが報告された。最後に、鈴木実行委員長から実行委員会で取り組んだ檄布を手渡し、激励行動を終了した。

私たち自治体労働者にとって、春闘は決して「対岸の火事」ではない。また、労働者連帯の崩壊を狙いとした格差社会が意図的に生み出されている今こそ、官民の垣根を越えた団結で労働運動を盛り上げていかなければならないことを、今回の激励行動であらためて痛感した。【報告:安藤(伸)】

07春闘の課題に学ぶ

― 青年部春闘労働講座 ―

青年部は毎年春闘期に「春闘労働講座」を開催し、課題別学習をおこなっている。今年は07春闘の情勢をはじめ、わが組合の課題、また第三回は基本組織と「共催」で、全労協の中間事務局長を講師に招き、労働法制改悪など直近の課題について学んだ。

◆第一回

「07春闘をめぐる情勢と私たちの課題」

講師 金澤 壽

(東京清掃副委員長)

ホワイトカラーエグゼンプション、過労死問題、格差社会、さらに憲法9条を含めた改憲問題など、今われわれを取り巻く課題は山積している。しかし、どこ



⇒講座の様子(写真は第一回)

となく「他人事」といった雰囲気も漂っている。言うまでもないが、これらはすべて労働(者)と密接な関係を持っており、一方で「労働運動の課題」と捉える必要がある。また春闘は「つながり」で(統一的に)闘うもの「であるが、労使協議の個別化(企業別)でそれが崩されてきている。「統一的な闘い」は、われわれ東京清掃の課題にも似ている。こうした春闘の情勢に学び、しっかりとした闘いを構築しなければならない。

◆第二回

「今後の東京清掃労働組合と青年の課題」

講師 大島 誠

(東京清掃書記長)

区移管以降、私たちを取り巻く情勢が大きく変化し、課題が山積する中で、地公労法適用の労働組合の権利とその活用、技能主任選考の総括と今後の展望などについて丁寧な解説。これにより今後の闘争課題が明確となった。講師は、「日常的な課題はもちろんだが、今後可能性が出てくる『公務員の首切り』など将来的な課題についても、青年部として議論する必要がある。いずれにしても、青年部から要求を出し、納得のできるまで声をあげ続けること

が重要だ」と強調した。

◆第三回

「メーデーの歴史と労働法制改悪攻撃」

講師 中岡 基明

(全労協事務局長)

労働契約法をはじめ、労働基準法や最低賃金法などについての改悪案が国会に提出されるなど、いま労働法制が大きな動きを見せている。本来、労働者を守るべきものが、改「正」によって使用者都合のよみのへと塗り替えられている。こうした中で、やはり「闘い無くして権利の防衛と拡大はない」ということ、さらに官と民、正規と非正規など労働者の『壁』を越えた連帯こそが闘いの力となることを忘れてはならない。

報告

5・15沖縄平和行進 戦争の「残酷さ」を実感

5月11日、14日の日程で「沖縄平和行進」に参加してきました。特に印象的だったのは辺野古訪問と平



基地建設反対のシュプレヒコール (辺野古)

和行進です。辺野古は現在、普天間基地の新基地移設先として危機的状況にあります。滑走路予定地にはサンゴや絶滅寸前の沖縄ジュゴンが生息しており、自然破壊にもつながる重要な問題です。建設に伴う調査で自衛官が一方的な強行手段をとることに「自衛官は決して国民を守らない」ことを確信しました。

平和行進はうるま市役所からスタート。強烈な日差しと暑さの中、シュプレヒコールとともに約18kmのコースを貫徹してきました。沿道では、大人から子

参加者が意思統一

東京清掃青年部「結団式」

6月15日、17日におこなわれる第18回自治労関東甲地連青年女性夏期交流集会への参加にあたって、青年部は6月11日、意思統一や注意事項の徹底を図るための「結団式」を開催した。



講演を受ける夏期交参加者

結団式では、今集会の「主催者」である自治労関東甲地連青年女性協議会で議長を務める長田周一郎さんを講師に招いて学習会をおこない、情勢の問題提起を受けるとともに、集会の意義や目的をあらためて確認した。学習会で長田さんは「誰もが今の賃金や働かされ方に、大小の矛盾や不満を抱えているものです。職場、生活実態の付け合せから、まずは仲間の思いや声を共有することが大切です。この三日間で大いに学習し、交流して職場からの闘いに繋げよう」と呼びかけた。

続いて長妻組織部長から集会中の諸注意や事務連絡について詳細にわたり説明を受け、最後に団結がんばらうで終了した。

供まで行進を応援する県民の方々が数多くいて行進を盛り上げてくれました。

4日間の日程を振り返ると、今なお残る戦場の形跡や、語り継がれる報告を聞き「戦争ほど無意味で残酷なものはない」ことを実感しました。私たちがすべきことは、平和の尊さを大切に二度とこの様な惨事を繰り返さないことです。そうした意味で、教育基本法や憲法改悪など、今まさに「戦争のできる国」へと突き進む政府の動きを許してはなりません。今回の沖縄での体験を職場・地域といった身近な問題と絡め、反戦平和の運動を広げていきたいと思えます。

【報告】 東海林・神谷

編集部の「チヨイ出し」

先日おこなわれた第18回自治労関東甲地連青年女性夏期交流集会に、わが青年部からは30人が



参加しました。今回の参加者の中には、4月に新規採用された仲間が、なんと9人もいるじゃありませんか!!これには、ベテラン組の気持ちも清々しく新鮮になるつもりです(笑)。そんなフレッシュな「新探パワー」のおかげで!必ず一日は雨が降る夏期交も、なんと今年は全日程が晴れ。しかもご覧の快晴!!ホントすばらしい集会となりました(涙)。

おおつと、いけね、しゃべりすぎた!これはあくまで「チヨイ出し」。くわしくは次号で...

鬼デスクの「お詫び」

第5号から発行が滞っており、この間多くの方から心配の声をいただきました。べつに「廃刊」でも「飽きた」ワケでもありません(笑)。実は「指の故障」により、お休みをいただいていた(詳しくは会った時にでもお話しします)

今号よりリハビリを兼ねて発行していきますので、引き続きのご愛読を宜しくお願い致します。